

## 熊谷勇太郎

明治元年（1868）燕市八王寺に生まれた自治功労者。粟生津の長善館鈴木惕軒に学び塾流と号した。長歌、和歌に勝れ雄弁家。憲政会に属し村会議員、収入役、郡会議員、三条の裏館村長を務める。

この間、熊谷勇太郎は「横田切れ」の洪水にあう。明治 29 年（1896）10 日間位の雨降りで八王寺橋より 2km 弱離れた横田の堤防が 7 月 22 日に切れる。

死者 46 人、負傷者 29 人、家屋流失 45 戸にも及ぶ大被害である。この惨状のため信濃川流域の農民たちは、「仏壇・長持・夜具まで捨てて、この身、このまま独りの子供、驚き迷うてわめきて狂う・・・」と唄い、水害の物凄さを語りつぐ。

大河津分水工事の話が再燃したのは、この洪水があってからである。実際に着工されたのは明治 42 年、国営工業で 15 ヶ年、1,300 万円の巨費で大正 11 年完成以後大水害はない。

勇太郎は八王寺堤外地開拓を説き、昭和 2 年着工し、翌年に 33 町歩を拓く。また八王寺橋の鉄骨永久橋の掛け替え議案を村議会に提案、四分の一の八王寺負担で昭和 6 年着工、7 年竣工。これを見ないで昭和 4 年、63 歳で没し、八王寺橋の袂の鎮守社に顕彰碑が建つ。